

日本リズム学会第 36 回大会 発表

「英語リズムムーブメントの概念と実践報告」

要旨

多くの日本人が学校での学習や個人学習を含め、英語学習に多大な時間を費やしているのにも関わらず、英語のスキル、とりわけ「聞く」「話す」スキルが伸び悩んでいる。それには様々な要因が考えられるが、大きな要因の一つは日本人の英語言語リズムの捉え方である。

それぞれの言語は固有のリズムを持っており、その固有の言語リズムを認識することが言語習得では非常に重要である。言語リズムにはタイミングや長さといった時間的な要素だけでなく、強さ、方向、スピードといったエネルギーの空間的要素も含まれており、人は言語の音を聞き、その音の特徴やリズムのパターンを認識、模倣することで、言語を習得してゆく。

日本語と英語のリズムは時間的、空間的共に大きく異なる。しかし日本ではリズムを軽視する傾向にあり、日本人は 2 つの言語リズムの違いに無自覚なまま英語に触れ、日本語のリズムを感じるモードのまま英語を聞いたり話そうとしたりするため、悪戦苦闘するのである。

目白大学大学院言語文化学科教授の鷲津名都江氏は、イギリスと日本で童謡を歌う子どもの様子を観察し、それぞれの言語には「言語リズム素」というものが存在することを見出した。そして言語のリズムを空間的、動的に捉え、英語のリズムを「バウンシングリズム」、日本語のリズムを「ストンピングリズム」と表現した。私はこのバウンシング・ストンピングという概念を用いて、言語の動きと身体の動きとを連携させ、英語のリズムに沿った身体の動きを用いながら英語を口ずさむことで、楽しく効果的に英語を習得できるのではないかという仮説を立てた。そして言語学、英語教育法、音楽教育法、ダンスフィットネス指導法などを取り入れた英語教育法「英語リズムムーブメント」を 2015 年に発案、実践を開始した。今回は「英語リズムムーブメント」の概念を紹介し、3 年間の実践報告を行う。

発表者プロフィール： 石川良美（いしかわよしみ）

幼児英語教育研究家、京都大学教育学部卒業。2015 年より英語リズムムーブメント理論を研究、Rhymoe（ライモー）プログラムを考案。神戸を中心にこれまで延べ 2000 人以上に Rhymoe を実践。2018 年 5 月より、Rhymoe が渋谷区共育プラザ“すぽっと”の共育プログラムに採用。2017 年一般社団法人英語リズムムーブメント協会(ERMA)設立、代表理事を務める。